リアス VOICE

一人ひとりがまちづくりの主人公
私たちの愛する町・南三陸を語る

「生命の循環を実感できる町 私たちは生態系という宇宙に生きている」

南三陸町自然環境活用センター 所長・理学博士 **横浜康継さん**

伊豆の下田臨海実験センターで大学の任を終え、南三陸町に移り住んで8年が経ちました。自然の美しさ、食の豊富さおいしさは言うに及ばず、都会にはない純朴さと都会より熱い気概にあふれた人びとに、私は自然に引き寄せられました。そして山と川と海がコンパクトにまとまった、循環する生態系を学ぶための標本のような、生きた環境学習の町に魅せられたのです。この海辺の研究所では、子どもも大人も好奇心旺盛に学び、遊ぶことができます。色彩と造形の美に満ちた海藻の魅力を知り、地球環境問題の本質を理解するきっかけとなる海藻おしば講座や、最高倍率30万倍というミクロの世界が観られる、走査型電子顕微鏡による植物プランクトンの観察、そしてエコカレッジ事業などが活動の中心です。光合成にはじまるエネルギーの循環により、人も生き物の一つであり、自然の一部として生きていることがよくわかります。豊かな環境と人の交流がある南三陸のフィールドで、この現場らしい研究と教育、そして地球の生物として「生きているとは」を探求し続けていきたいと考えています。

「地域の人が元気に張りきる お互いを笑顔にする体験交流はすばらしい」

校舎の宿 さんさん館 グリーンツーリズムコーディネーター **山内富美子さん**

廃校になった林際小学校の卒業生が中心になって、思い出の校舎を地域活性化のために生かしたいと、2000年に校舎の宿を”開校“しました。農山村と漁村がバランスよくまとまった南三陸町らしいグリーンツーリズムで、体験者に驚きと喜びを提供でき、私たちの気持も若返ります。この地域に生きてきた人たちにとって、その知恵と技を生かせる場ができ、励まされ、ふれあいを楽しみ、地域に活気が生まれました。ここの自慢は、なにより農家のお母さんたちの身内のような自然なホスピタリティです。その温かさに感動される方が多く、また新しい交流もはじまります。これからも地域のいろいろな方々と協力し合い、ネットワークを大切にして、もっともっと楽しい南三陸にしていきたいですね。

「知るほどに深まる、町の魅力 広域観光で新しい南三陸をつなぎたい」

南三陸町観光協会 会長 **阿部隆二郎さん**

2町合併後、1年が経過しましたが、南三陸町という新しい町名を今後とも広く浸透をはかっていくことが大切です。美しい海に面した町に南三陸という名前が付き、これ以上ない素晴らしいイメージを観光に結びつけたいですね。アクセス面では大きな効果のある三陸自動車道の整備促進に期待しています。2008年には仙台・宮城ディスティネーションキャンペーンが開催されますので、合併効果を生かした広域的な観光戦略で誘客を図りたいと考えております。南三陸町の良さは、海と山での体験を通じて、自然の豊かさと人の温かさを実感できることですね。新しい海の魅力を発見できるダイビングやシュノーケリング体験も加わり、海を資源とした観光の町としてこれからもアピールしていきます。

「きれいな海をいつまでも自慢したい そして人と環境を大切にしたい」

宮城県志津川高等学校 平成18年度生徒会長 **高橋遼平さん**

志津川に生まれ育ったので海が好きで、小さい頃から海で遊んできました。きれいな海が当たり前で、環境のことはあまり考えていなかったのですが、汚れてからでは遅いので一人ひとりの意識を今、変えないといけないと思います。クリーンアップ作戦で町の清掃活動を行っていますが、その中では地域の方たちとの自然なつながりが生まれ、得るものは大きいですね。学校でも、先輩と後輩の接し方だけでなく、人と人とのつながりを学ぶことができ、まとまりも強くなっている。それが中高一貫教育の良さのひとつと思います。

「ワカメ本来の味を届けたい だから日々挑戦です」

1999年から2000年は、中国産や韓国産のワカメが大量に宮城県内に出回り、三陸産ワカメが暴落した年でした。危機感を抱いていた生産者5人はたまたま宮城県の浜の起業家講座で出会い、そのまま独自ブランドづくりに意気投合して、このワカメの生産に乗り出すことになったのです。外海で育てた「シャキシャキ若芽」は、まだ成長過程にある2メートル以内の若いワカメを刈り取った、身が厚めのワカメです。収穫量は3分の1になりますが天然物に近く、甘みのあるシャキシャキした食感が好評で、県内外にファンが少しずつ増えています。催事の試食で必ずリピーターができますが、認知はこれからですね。おかげさまで優良県産品推奨品に認定され、お客様からの高い評価にも励まされて、毎日がチャレンジの連続です。

みやぎ伊達な若芽生産者の会 漁業士 **最知隆さん**

Individuals and groups in Minamisanriku Town do many original and unique activities to “Try to create a town where we live by ourselves”. Minamisanriku Town preserves ideal ecosystems and started the “Eco College Project” with the “Shizugawa Nature Center” in Shizugawa as the base of environmental learning. In a base of green tourism “*Sansan-kan*” in Shizugawa, local residents give lessens to the visitors with a variety of ways for hands-on learning.